

持続可能な社会を目指して

ESG投資

近年、投資の世界では「ESG投資」が注目を集めています。環境、社会、ガバナンスの要素を考慮したこの投資手法は、持続可能な成長を目指す企業に焦点を当てています。今回は、ESG投資の基本概念や手法、メリットと課題についてみてみましょう。

■ESG投資とは

ESG投資は、企業の環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の3つの要素を考慮した投資手法です。企業の持続可能な成長を目指し、財務情報だけでなく、これらの非財務情報も考慮して投資対象を選定します。

ESG投資の主な要素

環境(Environment): 気候変動対策、資源の効率的利用、廃棄物管理など。

社会(Social): 労働環境の改善、人権の尊重、地域社会への貢献など。

ガバナンス(Governance): 企業の透明性、経営の健全性、法令遵守など。



ESG投資の背景と歴史

ESG投資の概念は、2006年に国連が提唱した「責任投資原則(PRI)」に端を発します。この原則は、投資家が環境、社会、ガバナンスに関する責任ある投資行動を取ることを求めています。特に、2015年に日本の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がPRIに署名したことで、国内外での関心が一層高まりました。

■ESG投資の手法

世界のESG投資額の統計を集計し、欧州・米国・日本など世界各国のESG調査機関の連携によって構成されるESG投資の普及のための国際団体であるGSIA(Global Sustainable Investment Alliance(世界持続可能投資連合))は、ESG投資を以下の7つに分類しています。

1. ネガティブ・スクリーニング

ESGの観点で問題がある企業、つまり環境や社会に対し悪影響を及ぼすような企業を投資先として除外する方法です。

2. ポジティブ(ベスト・イン・クラス)・スクリーニング

ESG評価が高い企業を選んで投資する手法です。各業種内においてESG評価の高い企業を選定して投資する方法を「ベスト・イン・クラス」と呼びますが、これもポジティブ・スクリーニングの一種です。

3. 国際規範スクリーニング

ESGに関する国際基準を満たしていない企業を除外する手法です。国際基準とは国際労働機関（ILO）や国連グローバル・コンパクト等があり、どの基準を採用するかは投資家自身が選定します。

4. ESGインテグレーション

従来の財務情報を用いた投資方法と、ESG要素を組み入れて総合的に投資判断を行う手法です。

5. サステナビリティ・テーマ投資

再生可能エネルギーや農業などサステナビリティ（持続可能）なプロジェクトや事業を行っている企業を投資先として選定する手法です。

6. インパクト・コミュニティ投資

一定の投資収益の確保を図りつつ、地域社会や環境に対してよい影響を与える事業を行っている企業に投資することです。

7. エンゲージメント・議決権行使

株主総会での議決権行使や経営者に直接話すことで、投資家が企業に対しESGに関する取り組みを促すことです。また、促した結果、企業に改善が見られなければ、その企業を投資対象から外すことがあります。

■ ESG投資のメリットと課題

メリット

リスク管理：環境や社会問題に対するリスクを低減し、長期的な安定性を確保できる。

リターンの向上：ESG要素を考慮することで、企業の持続可能な成長を促進し、経済的リターンを向上させる。

社会的責任：企業の社会的責任を果たし、ステークホルダーとの信頼関係を強化できる。

課題

評価基準の統一性：ESG評価の基準が統一されておらず、評価のばらつきが生じることがある。

情報の透明性：企業のESG情報の開示が不十分な場合、正確な評価が難しい。

短期的なリターンとのバランス：ESG投資は長期的な視点でのリターンを重視しますが、短期的なリターンを求める投資家にとっては魅力が薄れることがある。

ESGが企業価値と結び付けて考えられるようになってきたことが、ESG投資の普及に向けて転機になったとみられています。継続的な企業価値の創造プロセスに影響を与える要素として、ESGを位置づけて考慮することが、望ましいESG投資として受け入れられつつあるのかもしれませんが。

